

1 単 元 火事がおきたら

2 単元の目標

- (1) 消防署で働く人について意欲的に調べようとするとともに、家事に備えた施設・設備に関心を持ち、進んで調べようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 火事からくらしを守る仕事の緊急性や重要性、関係諸機関の連携の必要性を考えることができる。(思考・判断)
- (3) 消防署の様子やまちの消防施設を調査・観察し、その結果を絵や表、地図などで分かりやすく表現することができる。(技能・表現)
- (4) 火事からくらしを守る仕事や関係諸機関の連携、地域の火事に備えた施設設備の働きと大切さが分かる。(知識・理解)

3 単元構想(8時間完了 本時 7/8時間)

学校に消防車が来たぞ

- ・たくさんの水を積んだタンクがついていたよ。
- ・長いホースを使って、水をかけるんだね。。
- ・はしごのついた消防車を見たことがあるよ。



消防署の人たちはどんな仕事をしている

消防署で働いている人は、どんな努力や工夫をしているのだろう

消防車が出動するまで

- ・電話番号で場所が分かり、すぐに地図が出るそうだよ。
- ・知らせを受けたら、2分以内に出勤するんだって。

どんな仕事があるの

- ・3つのグループを作って、交代で働いているよ。
- ・昼も夜も働いてたいへんだな。
- ・早く消火や救助ができるように、訓練をしているんだって。

すばやく火を消すために



学校や校区では、

いろんな努力や工夫をしているんだね。

火事を防ぐためにどんなことをしているのだろう。

学校や校区には、どこにどんな消火施設があるのだろう

学校

- ・ろうかに消火器が置いてあるよ。
- ・3階には、はしごもあったよ。
- ・避難訓練のときに、火災報知器が鳴っていたね。

校区

- ・校区市民館が避難所になっているよ。
- ・消火栓がたくさんあったお。
- ・家の近くに消防団の倉庫があるよ。

火事にそなえて、



でも、消防団って何をしてるのだろう。

いろいろな施設やしくみがあるんだね。

消防団って何だろう。(本時)

- ・火事の時消防署と協力すれば、はやく火が消せるね。
- ・消防署よりも近くにあるから、安心だ。
- ・火事が起きたらすぐ出動できるから、大きな火事にならなくてすみそうだ。
- ・消防団の倉庫には誰もいないよ。
- ・誰もいないから、火事の時すぐ出動できないよ。
- ・消防団の人は、自分の仕事を持っているからすぐ出動できないよ。
- ・消防署をもっと増やせば、なくてもいいよ。



火事を防ぐために、地域の人と協力しているんだね。

災害を防ぐために、豊橋市はどんな努力や工夫をしているのだろう。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

調べたことをもとに、消防団の活動について考え、話し合うことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援	評価
	消防団は、どうしてあるのだろう。 <u>あった方がよい</u> ・火事するとき、消防署と協力すれば、はやく火が消せるね。 ・豊橋市は広いから消防署だけだとたいへんだよ。 ・消防署よりも近くにあるから、安心だ。 ・火事が起きたら、すぐ現場に行けるから、火事が小さいうちに消せるよ。 ・自分たちの校区だから、自分たちで守るんだ。  <u>なくてもよい</u> ・消防署の倉庫には、誰もいないよ。 ・誰もいないから、火事が起きてもすぐ出動できないよ。 ・消防団の人は、自分の仕事を持っているから、すぐ出動できないよ。 ・仕事が終わって、夜や休日に訓練するからたいへんだ。 ・消防署の数をもっとたくさん増やせばいいよ。 ・火事はそんなに起きないから、消防署だけで十分だ。 一人調べをしたことをもとに、自分の考えを進んで発表することができたか。(発言) 自信を持って発言できるように、予めノートに朱書きを入れておく。 普段発言が少ない児童に自信を持たせるため、教師が指名して発言の機会を与え、おおいに褒める。		
25	 <u>いろんな意見がでたね。消防団の人に確かめてみよう。</u> 消防団の人の話を聞いてみよう。 ・火事や災害が起きたときには、消防署と協力して、消火や救助を行っているんだよ。 ・火事を出さないように、普段からみんなに呼びかけているんだよ。 ・みんなで自分の校区を守ることが大切なんだよ。 出し合った考えを確かめるために、ゲストティーチャーとして消防団の人を招き、話をしてもらう。 ゲストティーチャーとは事前に十分に打ち合わせをし、消防団の仕事や役割、努力や工夫、願いなどについて話をしてもらう。		
35	学習の振り返りをしよう。 ・みんなで協力して、校区を守っているんだね。 ・消防団の人ががんばっているから安心だね。 消防団の仕事や役割、努力や工夫、願いなどについて考えることができたか。(ノート)		
45			

(3) 評価

- ・話し合い活動を通して、消防署や消防団、地域の人たちが協力して火事を防いでいることについて気づいたか。(ノート・発言)